

癒しのトイレ研究会 研究誌17号によせて 高齢者への配慮や清潔さへの視点を大切に



癒しのトイレ研究会 会長
高柳 和江 (たかやなぎ かずえ)
医療法人社団葵会
元日本医科大学准教授
一般社団法人癒しの環境研究会 理事長
笑医塾 塾長

トイレには、ソフトとハードがあります。癒しのトイレ研究会本年号は、癒される空間としてのトイレの研究、視覚障がい者の誘導、いくつかの模範とすべきトイレ環境を紹介しています。日本のハードは非常に良くなつたと実感されるでしょう。問題は、ソフトです。

指が動きにくくなつた高齢者には、薄いトイレットペーパーを一枚だけとることは至難の業です。やっと薄いペーパーを一枚ロールからはがす。コロコロ、コロコロと流れるよう出てくる。ここで、次の問題にぶち当たります。切れないのです。ミシン目が入っているロールであれば良いのですが、ないものでは、延々とペーパーがでてきます。仕方がなく、力任せにひきちぎろうとしますが、これも意外に難しい。利き手と反対側の壁にペーパーロールホルダーがあつたり、座った後ろの方にロールホルダーがついていると、大変なのです。あつという間に、ロールの半分くらいの紙がでてきます。沢山のペーパーを使っていないのに流すのは罪悪感があるし、一回に流して詰まらないか心配です。

「便座に座る前に、前もってペーパーを準備する」は、高齢者では無理です。個室に入った途端、スイッチが入つて、排尿作業が始まります。下着を下ろすのに間に合うか心配なぐらいです。

一見清潔そうなトイレでも、どんな掃除をされているのかも心配です。前の使用者のお尻と直接接触したくない。掃除直後でも、便座を最初にきれいな布で拭いてくれているのか、便器を全部掃除した後の仕上げに便座を拭いているのか、想像するのは恐ろしいものです。便座ペーパーがないときは、普通のペーパーを分厚く便座の上に積み上げます。ペーパーの浪費になりますが仕方ありません。

トイレの清潔さは、日本の医療の信頼の分水嶺です。医療施設や福祉施設のトイレは特に、信頼を裏切らないでほしいと願います。

癒しのトイレ研究会とは



より良い病院・福祉施設のトイレ環境づくりを目指して、トイレ関連企業が結束して2000年に発足しました。

発足以来、調査・研究を重ねて毎年研究誌を発行し、学会発表や各種セミナーなどを継続してきています。

癒しのトイレ研究会のホームページ

<http://hospitality-toilet.jp>

病院・福祉施設のトイレづくりに役立つ、さまざまな情報を掲載しています。

- 病院トイレの豊富な現場実例
- 病院トイレづくりのポイント
- 清掃やメンテナンスの方法



癒しのトイレ研究会の研究誌

癒しのトイレ研究会は発足以来、病院と福祉のトイレづくりの調査・研究の成果をまとめた研究誌を、毎年発行しています。

ホームページから閲覧・ダウンロード、さらにお取り寄せいただけます(無料)。

